

宇宙開発の現状報告に対し下記のような活発なやり取りがあった。

青江: 教えて欲しいんですが、英国の宇宙探査についての報告書について、エグゼキュティブ・サマリーだけしか読んでいないんだけど、経済的な利益を強調しているみたいであるが、リアリティの有る話は其処に入っていますか。

坂口: 具体的な経済社会に対する影響等については、個別具体的な話は書いてなくて、結論として「宇宙探査をやることでイギリスの経済に貢献をする<sup>1</sup>。」と云うことが書かれているのみで、具体論的には見受けられないという状況で御座います。

青江: 其れを含めて、何か日本が今宇宙探査についてのワーキンググループで議論しておりますけど、役に立つことありますか。役に立つこと何も無いんじゃないかと思うんです。

池上: え、一寸待って下さい。私も一応読みましてね、役に立つこと有ると思います、**表現の仕方<sup>2</sup>**等を含めましてね。

青江: ウーン。

---

<sup>1</sup> 小職はレポートを読んでいないので、坂口企画間の言葉を信じるしかないが、近年、世界のどの国でも、宇宙について「経済に貢献する」事を説明しないと受け入れ難くなっているようである。但し、それは「説明の為の説明」と云う要素が有り、根源的な動機は「国家安全保障」であり、「惑星探査に於いて米国に独走を許さない」事であると考える。

<sup>2</sup> 漠然とし過ぎている。

池上: 一つは英語というのは表現力が矢張りあるなと、リコメンデーション、ザーッと、従来全部動詞が違っているというのは、これまた、表現力が十分あるなと思います。矢張り、参考。其れと、今、青江さん仰った、「役に立たない」と云う。

青江: タブサン(?)

池上: 物の考え方において、確かに具体的に社会への貢献という項があって、具体的に何ぼ儲かりますよと云う話は無いんだけど、(割り込み)

青江: 何ぼは無くて良いけれども、「**どう云う風に社会的、経済的便益が実益として得られるか<sup>3</sup>**」みたいなことを、結論としては書いてあるんだけど、其の中身がスッカラカンで何も書いてないんです。

池上: 具体的な事は書いてないです。でも中々上手いんです。

青江: だからだまぐらかすのが上手い。

池上: まあ、でも、どうですかね。何か、「だまぐらかす」と言うか、一応国民を説得するには、少なくともイギリスの国民を説得するには、私なんか読んでみて、良く出来てるなという感じが致します。

青江: 言葉が?

池上: 其れはまだ確認をしておりますが、ただ矢張り、**科学技術じゃなく、科学に基づいた探査<sup>4</sup>**というのは、或る意味で

---

<sup>3</sup> 大事な指摘である。「風が吹けば桶屋が儲かる。」よりは現実的な論理展開が必要である。「中身がスッカラカン」では困る。

<sup>4</sup> 良く判らない。科学技術から技術を抜くというのはどういう意味が有るのだろうか。

は、国にとっては何時でも止められるんだけど、それでも尚且つやりましょうと云う事を、ああ云う様な形で表現するというのは、見ていて興味があり、上手いなと感じるという。

青江: 解りました。えっへっへ。

池上: 青江さんが仰るのは、僕十分理解できますけどね。でも、**そんな旨い話無いですよ<sup>5</sup>**。此れ言ったら兎に角皆が賛成してゴーと云う様な、中々。

青江: そうですよ、そんな旨い話が有るもんじゃない。

池上: だから、僕は、ポイントは彼らの基本的なスタンスというのは、例のグローバル・エクスプロレーション・ストラテジで、あれをベースに議論と云うか、で、あれが出てきた事と云うのは、**新しい宇宙探査についての、或る意味では幕が開いた<sup>6</sup>**と、其れに対してイギリスとしてはどうするかという風な構成を作ってる訳です。処があれが多分、特に月について議論する上で此処が重要ではないかと、過去をズーッと引き摺ってきて、其の延長でやるというストーリーは、流石イギリス

といえども通らなくて、新しい幕が開いた、其処で何をやるかと云う事を言うという、構成ってのは中々上手いなと思うんですね。

青江: そうですね、**新しい時代の幕開け<sup>7</sup>**。

池上: 幕開けなんですよ。

青江: 其の時に日本として何をやるか。と云う問題提起なんですよ。

池上: そう云う事なんです。

青江: 我々のね。

池上: そう云う意味です。

青江: こっちはプロネ(?)

池上: プレーが上手く行ってるかどうかって未だ判らない。

青江: **レイジット(?)な話じゃないんだ。エコミックな、経済的な便益の話じゃないと<sup>8</sup>**。

---

<sup>5</sup> 優れた政治家は国を憂い長期的な再策を熟慮し、当面の反対に遭っても挫けず、国民に幸せを齎(もたら)そうと努める。「旨い話」を求める者は、優れた政治家ではない。

<sup>6</sup> 観念的に過ぎる。第3の波をIT革命と分析する人が居るが、第3の波を宇宙(活動とか探査)と唱えても誰も随いて来ない。「機会」と言われて同意できる部分は、イギリス国家の宇宙活動の中断が長いことである。サリー大学の宇宙活動は有名であるが、科学に集中し、小規模予算での取り組みに絞られている。イギリス政府が米国に参画を呼びかけられたのは「機会」である。

---

<sup>7</sup> こう云う言葉は情緒的同感を得られ易いが、「だから宇宙予算が増える」様な事には繋がらないと思う。それに、変化の時代に生きる人は、その変化に振り回されるだけであって、冷静な把握は出来ないものである。後になって変化の時代だったことに気付くのである。其れより、「米欧と、どうしても一緒に歩かなければ」との説明が必要である。インド洋で給油・給水活動を続けているのも、「どうしても一緒に歩かなければ」と云うことで継続しようとしている。それでも野党の反対にあっている。又、小職は知らないが、防衛予算の増額に繋がっているのではあるだろうか。

<sup>8</sup> 冒頭の坂口企画官の発言を忘れたようだ。(脚注1参照)「探査はイギリスの経済に貢献する」と言っている。

池上: 無いと思います。議論すると良く出てくるんですけど、色んなところに、チャンス、**我々にとって新しい機会<sup>9</sup>**が提示されてるんだと。で、其の、チャンスを最大限活かそうよという、此れはまあ、彼らの一つのロジックなんですね。で、其れは日本でもそう云うような議論の立て方が有って良いんじゃないかと。日本では直ぐ何ぼという話になるけど、其れチャンスであって、チャンスが上手く行くかどうか分からない。しかし、チャンスに其れを見過ごしちゃうか、乗るかという事は、我々も考えておいて良いんじゃないかと。

青江: 仰る通りですね。と云う風に僕は思いますね。はい。

他に何か聞いておきたいこと有りますか。

池上: ガリレオは、民間資金で上手く行かないという話があって、其れに対して、此れ、十分な金が出るようになったと云う風な感じ？

坂口: 民間分の資金をどの様に確保するかという議論がされていたんですが、ECの方が予算を増額して、其の必要な分を確保したと云うのがこの中身で御座います。

青江: 非常に簡単に言うと、民間の方のお金が、とてもじゃないが事業化の目処が立たないから、もう撤退しますと。其の分をEU そのものが、色んなところからの金を掻き集めて埋めて行きますと。非常に、日本の準天頂、非常に規模は小っちゃいんだけど、構造的に良く似とるナァと。と云う風に

---

<sup>9</sup> イギリスにとっては新しい機会かもしれないが、日本はISSから参画していて、連続的な、当然声を掛けてもらえる、当然の機会である。

思っではいかんですか。中川さん、そう云う風に思っではいかんですか。構造的にはもうそっくりじゃないかと。そう云う風に言うのはおかしいですか。

中川: 学ぶところは。

青江: 学ぶと云うのは、まあ、其れはそう...。位置情報についてのあれというのは、公共インフラだと、本質的には、プライベート・セクタの儲け仕事との関連においては、矢張り、或る意味**時期尚早<sup>10</sup>**なんだと、云う風な整理をせざるを得ないんじゃないかと。インフラ作りだと、公共インフラの。此れが、あたかも、日本をそう云う風に切り替えざるを得なかった。今回、ヨーロッパも其処のところはそう云う場面に直面したという風に言うんじゃないかと、思っでおるんですけどもね。見方の問題です。

エーと、もう一つですね議題があるんですけども、此れは人事案件ですので、...略...(委員退出。)

---

<sup>10</sup> 宇宙通信でさえ基幹通信手段では無いのに、測位の商業化は早過ぎるであろう。当時、産業界からの強い働きかけが無ければ実現しなかったプロジェクトであり、許容されるリスクの範囲でプロジェクトの発進を促したのである。X プライズは成功報酬であり、成功者が出ない可能性もあるので、準天頂やガリレオの企業側参画者よりもリスクが低いのかも知れない。